

あかいし文庫 開設式& 上

交流懇談会

二〇一九年五月二十五日(土)、宮崎県中小企業家同友会(以下、宮崎同友会)の事務局内に、会員で手分けして作り上げた「あかいし文庫」が開設された。これに伴い、開設式及び交流懇談会が開催され、赤石義博氏の御令室をはじめ県外各地から8名、宮崎同友会の会員45名が参加した。

「あかいし文庫」とは、中小企業家同友会の全国協議会(以下、中同協)の会長をはじめ、相談役や顧問を務めてきた赤石義博氏が亡くなった後、同氏のご自宅を訪ねた宮崎同友会のメンバーが、書斎の天井近くまで埋め尽くされた書棚いっぱい、の書籍に圧倒され、御令室のご厚意もあり、そのほとんどを譲り受け、宮崎同友会の事務局の一角に作り上げたものである。開設にあたっては「あかいし文庫」プロジェクトチームが結成され、宮崎同友会会員のボランティアの輪が広がり、目録づくり、書棚づくり、分類整理まで全て宮崎同友会会員の手によって行われた。

書籍は一四〇〇冊におよび、書籍は「あかいし文庫『友の会』」に入会することにより、借り出しすることができる。県外の利用者にも対応できるように、宅配便の借り出しも受け付ける。

赤石義博氏とは

一九三三年北海道生まれ、北海道大学文学部哲学科を卒業。一九五九年、東亜通信工業(株)に入社し、一九七八年に代表取締役社長に就任。この間、同社を電磁鉄芯業界におけるナンバー1企業に育てる。一九九二年同社社長を退任。一九九四年(株)森山塗工グループ会長就任。二〇〇八年同グループ会長を退任後、あかいし脳神経外科クリニック会長に就任。二〇一六年三月十日、柏市の名戸ヶ谷病院に逝去。享年83歳。

一九六二年に日本中小企業家同友会(現東京中小企業家同友会)に入会。一九八五年から11年間にわたって中小企業家同友会全国協議会幹事長を務める。一九九八年から11年間同会長、二〇〇七年より同相談役幹事を、二〇一四年より同顧問を務める。まさに同友会の歴史と共に歩み、事例報告や基調講演は千回を超える。

著書に「変革の時代と人間尊重の経営」(二十一世紀型企業)その理念と展望(共著 鉦脈社一九九四年)、「人間尊重の経営/中小企業が切りひらく健全な市民社会への展望」(鉦脈社一九九八年)、「非情理の効率」を上回る「情理の効率」を(鉦脈社一九九九年)、「経営理念/人と大地が輝く世紀に」(鉦脈社二〇〇一年)、「人間力経営/社長と幹部の共育実践編」(鉦脈社二〇〇四年)、「幸せの見える社会づくり/地域力経営」を深め、「中小企業憲章」制定へ(鉦脈社二〇〇七年)、「私と「自主・民主・連帯」上・下巻(中小企業家同友会全国協議会二〇〇九年)等がある。

赤石氏と宮崎同友会

一九九一年一月に有志が集まって動き出した宮崎同友会創立への胎動は、四月の準備会の設立、翌月からの定例会開催で加速。中同協の国吉昌晴事務局長(当時)の支援もあり、一九九二年二月二二日の創立時には123名の会員で発足した。

創立総会記念講演は「人が育つ企業づくり」と題して当時中同協幹事長の赤石氏にお話いただき、期待と不安が交錯する宮崎同友会の方向性を指し示した。以来、支部設立総会、役員研修会、経営フォーラム、経営指針をつくる会等々、宮崎で何度も講演、講義をしていただき、二〇一四年のひむか支部設立総会記念講演での来宮が最後となった。

著書のほとんどは宮崎同友会の会員でもある鉦脈社から発行されており、その多くは宮崎で構想が育まれ、時には執筆の場となったらしい。このことは、宮崎同友会の根底に同友会理念が脈々と

受け継がれ、宮崎同友会の未来を展望する「Vision 30th」の発刊(二〇一八年)に至ったことへの重要な要素となっており、「あかいし文庫」が宮崎の地に開設することは、まさに必然だったと言っても過言ではない。

※本紙は原則として筆者の見解であるが、一部の情報や文章を過去に公開された文書より参照、引用している(参照した書類: 同友みやぎNo.23・2016年4月21日 赤石義博 追悼特集/「あかいし文庫」開設式&交流懇談会のしおり等)。

「あかいし文庫」開設式

宮崎同友会の事務局内(二階会議室の一角)に開設した「あかいし文庫」を見学した後二階ネットワークセンターにて開設式を開催した。いつもは飾り気のない会議室の会場だが、赤石氏のご自宅の庭、書斎、顔写真等を印刷したタペストリーが設置され、会員が切ってきた竹や鉢植えの花が飾られており、手作り感はあるものの式典らしい装いになっていた。



本をこよなく

愛した赤石氏

御令室である赤石育子氏にスピーチを求めると、まずは「あかいし文庫」の仕上がりについて感想を述べられ、暗くて狭い書斎の書棚に押し込まれていた本たちが、明るくて広々とした書棚に並べられ、まるで居場所を見つけたように喜んでるようだと言われた。また、入院中の赤石氏から「下から何段目の左から何冊目の何という本を持ってきてくれ」等のように何度も頼まれることがあったが、自宅に戻って書棚を探すと、言われたとおりの場所に指定された本がいつも本当にあるという生前のエピソードが紹介され、心から本を愛し、亡くなる直前まで学び続けることをやめなかつた赤石氏の姿勢や人柄を感じさせた。



「あかいし文庫」開設記念

パネルディスカッション&交流懇親の集い

開設式が終わると、会場を宮崎観光ホテルのダイアマン・ルージュに移し、「生きる・暮らしを守る・人間らしく生きる」と題してパネルディスカッションとグループ討論が行われた。パネリストは、岩手同友会相談役の村松幸雄氏(信幸プロテック株式会社取締役会長、静岡同友会相談役兼中同協幹事の杉村征郎氏(杉村精工株式会社社長)、愛知同友会会長兼中同協副会長の加藤明彦氏(エイベックス株式会社代表取締役会長)、福岡同友会相談役理事兼中同協副会長の中村高明氏(株式会社社紀之国屋会長)という豪華な顔ぶれが登壇した。コーディネーターは中同協顧問の国吉昌晴氏が務めた。二時間弱の時間だったが、皆が赤石氏との思い出が多く、一つひとつのテーマに思い入れが深いため、度々コーディネーターに話を止められる場面が見られる程だった。

魚の鱗論

労使見解と人間尊重経営、中小企業憲章と地域力経営、「自主・民主・連帯」の精神等をテーマに、それぞれが赤石氏との思い出やエピソード、そこから得られた学びや教訓を熱く語った。特に印象に残ったのは、同友会での学びを地域づくり、社会づくりへの「運動」へと繋げ、人生を捧げて取り組んできたことであり、それを様々な例えで語り伝えていくことだ。その一つ、話の中では「魚の鱗(ウロコ)論」と名付けられて紹介されたが、国民や地域と共に歩む中小企業を増やし、日本に本当の民主主義を根付かせ、幸せの見える社会づくりをしていくために、「魚の鱗のように同友会理念で世の中を埋め尽くす」と赤石氏は常々語っていたらしい。

(次号につづく)



文・構成・撮影
竹原 英男
TNAソリューションデザイン株式会社
代表取締役
宮崎北支部・理事・増強本部長・
組織強化連絡会議委員・
産学官民連携部会 MANGO 会長(兼担当理事)・
広報委員会担当理事・青年部設立準備会担当理事

本資料は同友会の会員がゲストや非会員を訪問したり、入会や例会参加をお誘いする際に活用していただくために試験的に増強本部が発行しています。PDF ファイルをダウンロードできますので、印刷する等としてご活用ください。